

(資料1) 平成26年度 磐田市立神明中学校 学校評価書

A:十分満足 B:おおむね満足 C:もう少し努力すべき D:大いに努力が必要

重点	目標・取組	評価指標	自己評価	考察・改善策	学校関係者評価委員から
一進 あいで、 さつさわ やすかに	<ul style="list-style-type: none"> 「おはよう、こんにちは、失礼します、さようなら等」からコミュニケーション力の向上を目指す。 授業での元気のよいあいさつ 	あいさつがしっかりできているか。	A	<ul style="list-style-type: none"> ○【考察】生徒の88%、保護者の86%、教職員の87%、学校関係者の88%が、本校の生徒はあいさつができていると評価している。今年度も保護者や生徒会、教師による「あいさつ運動」を継続的に行ってきた。その結果、学校内におけるあいさつは定着している。しかし、教職員や学校関係者から、「進んで」という点に課題を指摘する声があり、「自主性」を育む生徒指導の充実が課題として挙げられる。 ※【改善策】 <ul style="list-style-type: none"> ・人間尊重を基盤とした積極的な生徒指導の工夫（様々な場面で、生徒に寄り添い、自ら声を掛け、関わる指導） ・所属感や自己肯定感を育む温かな学級づくり（人間関係づくりプログラムの活用） 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域で下校時によくあいさつをしてくれる生徒がある。 ・部活動での指導は効果があるのではないか。 ・公民館の体育館等の施設利用後にあいさつがあるとよい。 ・下校時に声を掛けないとあいさつができない子もいる。
		「地域の人にあいさつ」をしているか。	B		
一粘 り強 く、 すさ わか かに	<ul style="list-style-type: none"> 授業に集中し、自主学習に挑戦する。 行事や部活動、各種大会、コンクール、検定試験等への挑戦 	授業の内容がわかっているか。	A	<ul style="list-style-type: none"> ○【考察】学校行事や部活動等では、意欲的に挑戦する姿が見られ、地域の行事においても積極的に取り組んでくれたと評価していただいた。また、生徒の81%、保護者の76%、教職員の96%が、生徒は基礎的・基本的な内容が理解できていると評価しており、授業改善に取り組んできた成果が見られる。生徒の77%、保護者の64%、教職員の75%が、生徒は家庭学習の習慣が定着していると評価しているが、家庭学習の習慣化については、保護者の約4割が十分でない指摘しており、やや課題があると考え。そのため、生徒の「主体性」を育む学習指導の充実が課題として挙げられる。 ※【改善策】 <ul style="list-style-type: none"> ・校内研修による「わかる・できる主体的な学び」を目指した授業の改善（言語活動の充実、アクティブ・ラーニング、目標に準拠した評価、全国学力・学習状況調査の活用） ・よりよい学校生活を主体的に築こうとする特別活動の充実（学校行事・生徒会活動・学級活動の充実） 	<ul style="list-style-type: none"> ・上級生になるほど授業に集中している姿が見られた。 ・地域の体育祭や防災訓練に積極的に取り組んでくれた。 ・トリアージ訓練等では大変寒い中で、役割を果たしてくれた。 ・人権作文への積極的な取組が高く評価され、浜松支局で2校だけが表彰された。今後も継続してほしい。
		家庭学習の習慣を大切にし、宿題や予習・復習などの学習に取り組めたか。	B		
		部活動や各種大会・コンクール等に積極的に挑戦できたか。	A		
一進 ポ ン テ さ イ わ ア か を に す	<ul style="list-style-type: none"> 奉仕活動・福祉活動・環境整備を通して、思いやる心を育成する。 	奉仕活動、福祉活動等に進んで取り組めたか。	A	<ul style="list-style-type: none"> ○【考察】本校の総合的な学習の時間「アクティブタイム」やボランティア活動を通して多くの生徒が福祉活動に進んで取り組むことができた。生徒の62%、保護者の60%、教職員の100%が、生徒はボランティア活動に進んで取り組んでいると評価している。しかし、学年や個人によって取組にやや差があり、3年間をかけて「社会性」を一層育むために、各学年の活動内容や方法を見直していく必要があると考え。 ※【改善策】 <ul style="list-style-type: none"> ・学校文化「福祉の神明」づくりの推進（「アクティブタイム」の充実、ボランティア活動の紹介の工夫、生徒会による福祉活動の工夫） 	<ul style="list-style-type: none"> ・「アクティブタイム」で、公民館を訪問した際に、リーダーがよく育っていると感じる。声を掛けて集団をリードできる生徒が多い。 ・全体的には良好である。ただし、個人差はあり、まだ遠慮している感がある。 ・手順を説明すれば積極的に行動するが、自ら行動できるとよい。
		福祉活動等を通じて、思いやる心の育成ができたか。	A		

学校関係者評価を受けてのまとめ

- 今年度の本校の教育に対する自己評価を踏まえ、学校関係者評価を受けて、本校の教育課題を「自主性・主体性・社会性の育成」と捉えた。来年度は、以下の実践を行い、教育課題の解決に取り組んでいきたい。
 - ・「自主性」を育むために、人間尊重を基盤とした積極的な生徒指導、所属感や自己肯定感を育む温かな学級づくりを目指す。
 - ・「主体性」を育むために、授業改善による「確かな学力」の育成と、より良い学校生活を主体的に築こうとする特別活動の充実を目指す。
 - ・「社会性」を育むために、「アクティブタイム」の充実や生徒会による福祉活動の工夫による、学校文化「福祉の神明」づくりの推進を目指す。
- 来年度から磐田市内の全小中学校に学校運営協議会が設置されるため、教育課程や学校経営計画、予算等の承認を得ることについて説明し、理解を得ることができた。みやのもり学府としても試行の年となるので、小中一貫教育の推進に取り組んでいきたい。